



目指す子ども像

自分や友達が好き、東小が好き、東のまちが好きな子ども

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

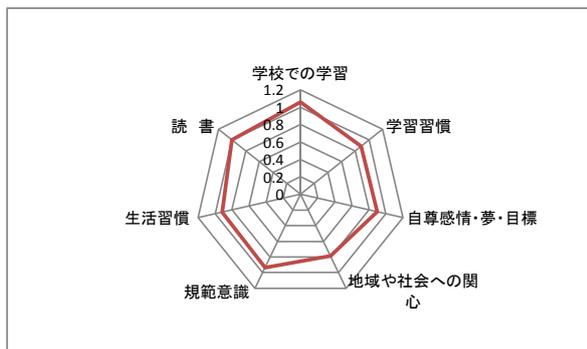
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語A	本年度の本校平均正答率は、本市平均正答率より11ポイント下回っていた。手紙の書き方、俳句、ことわざ、古文など普段あまり生活の中で使うことのない問題にもしっかりと目を向け、慣れ親しむ指導を図る必要がある。また、漢字の読み書きは繰り返し練習させる必要がある。	下回っている
国語B	本年度の本校平均正答率は、本市平均正答率より9ポイント下回っていた。全体的に記述式の問題に課題がある。書ける児童と書けない児童の二極化が目立っている。書くことが苦にならない取組をさらに継続していく必要がある。	下回っている
算数A	本年度の本校平均正答率は、本市平均正答率より6ポイント下回っていた。算数の指導の基本は「教えて、考えさせる」ことであるから、今後も基礎的基本的な知識（意味理解）・技能（方法理解）を確実に習得させる必要がある。	下回っている
算数B	本年度の本校平均正答率は、本市平均正答率より9ポイント下回っていた。全体的に記述式の問題に課題がある。何をどのように書けばよいのかを教え、書いて説明することを習慣化する必要がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○「学校の宿題をしている」児童の割合は9割を超えていたが、「自分で計画を立てて勉強している」児童の割合は4割程度であった。全校で自主学習の時間の目安（10分×学年）を示したり、個に応じた自主学習の量・内容・出し方を工夫したりすることで、自主学習の習慣を定着させる必要がある。

○「自分には、よいところがあると思う」児童の割合は6割程度であった。学校行事や学級活動において、満足感・充実感を得られたり、成功体験を増やしたりできる取組を行い、一人一人の頑張りを認め、ほめて伸ばす指導を今後も継続していく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 授業の質を変える → わかる授業づくり5つのポイントの徹底、若年教員を中心とした校内研修の実施
- 読書タイムの質を変える → 時間いっぱい1冊の本を・活字に慣れ親しむように（学習漫画・図鑑は読まない）
- 朝学習の質を変える → 月：新聞の読み取り 水：計算 木：MIM・ローマ字 金：音読暗唱（全校一斉実施）
- 補充学習の充実 → 学力定着サポートシステムの活用、ひまわり学習塾での担任による指導員補助

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化 → 自主学習ノートの活用し、「書く」ことを習慣化する内容（日記・今日の学習のふりかえり など）を取り入れる。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知する。（学校便りや学校HPで）
- 小中連携の学力向上の取組 → 中学校の定期考査前の時期に合わせて、家庭学習により一層取り組むように保護者に呼び掛ける。
- 地域の人材の有効活用 → 学校は地域の方に支えられているという意識や関心をもたせる。